



<N0171>

イチヨウの気根

イチヨウの巨木で枝から垂れ下がるように伸びた円錐形をした突起物を見かけることがある。これは乳根（ちちね）と呼ぶそうである。

イチヨウは雌雄異株の樹木で、女（雌）木と、男（雄）木があり、実（銀杏＝ぎんなん）を生らすのは雌木に限られる。乳ということから雌木だけのものであればわかりやすいが、乳根は巨木であれば雄木でも雌木でも見られるようだ。また、巨木であっても乳根のないものもある。

イチヨウの葉は広葉樹だが葉脈は並行脈で分類上は針葉樹に近い。胚珠が子房に包まれない裸子植物で中生代に栄えた植物群の一つである。現代では1科1属1種で仲間はいない。化石植物とも言われている。イチヨウ科の落葉高木。



<N0170>

冬越し
ロゼット

ロゼットとは茎と葉のようすを表す植物用語で、葉が地中から直接出て、放射状に広がった葉が地面にぺったりついている状態を言う。

他の大型の植物の生えていない場所で見られる冬越し中の姿である。写真の植物はブタナだが、タンポポやオオバコ、メマツヨイグサ、オオアレチ

ノギク、野菜ではホウレンソウやキャベツなどもそうである。

風に倒されるリスクや踏み付けにも耐えることができ、日光によって暖められた地面から熱をもらうことができ、株全体に陽が当たるため光合成の効率が良いなど、冬場の厳しい環境を乗り越える上で有利な仕組みとなっている。

ロゼットをつくる植物も生存競争が厳しくなる春以降には、他に負けじと茎や花柄を伸ばし、花をつけていく。